

UHC フォーラム 2017 サテライトシンポジウム

## UHC と結核対策

### — 相互貢献：日本とアジア諸国から学んだ教訓 —

日 時：2017 年 12 月 12 日 18:30-21:00

(軽食の準備あり)

場 所：ホテルメルパルク Tokyo 3 階 薔薇  
東京都港区芝公園 2-5-20

共 催：(公財) 結核予防会結核研究所、ストップ結核パートナーシップ日本

#### 背 景：

結核対策と UHC は、相互に深い関連があり、SDGs への重要な要素である。結核対策は様々なレベルにおいて UHC 拡大に貢献してきたし、UHC の発展が結核対策の充実に不可欠である。Global な論議は、Official Side Event の中で論じられるが、その内容を、日本やアジア諸国の実例を通して更に分析し、議論を深める。特に日本では、結核対策の強化により 1960 年代に世界にまれな結核の減少を果たし、かつ UHC を達成した経験が 1 つのモデルになりうること、アジア諸国の現状と課題も併せて結核対策と UHC 達成に関する議論を試みる。

#### 目 的：

1960 年代に UHC を達成した日本を 1 つのモデルとして、結核対策と UHC 発展との関係、結核対策が UHC 達成に寄与した要因を共有する。結核対策が、経済状況や疾病状況に合わせどのように活かすことができるのか、また、UHC の進展によって結核対策にどのような効果をもたらすのか他のアジア諸国の経験、今後の課題についても論じる。

#### 対象者：

UHC フォーラム 2017 の出席者（政府、開発パートナー機関、市民団体、民間企業、アカデミアなど）、特に公式サイドイベント「Reaching the Underserved and Vulnerable People Potential of TB response as a Pathway to UHC」の参加者、及びそこに参加できなかった関係者。

#### 座 長：

加藤誠也 (公財) 結核予防会結核研究所所長

岡田耕輔 ストップ結核パートナーシップ日本常任理事

## プログラム：

1. オープニング： 鷺見学（外務省国際協力局国際保健政策室長）
2. 基調講演  
演者： 國井修（グローバルファンド 戦略投資効果局長）
3. 結核対策と UHC の相互影響 - 年間 10% の減少過程における日本の経験  
演者： 加藤誠也（公財）結核予防会結核研究所所長
4. フィリピン事例 NTP  
UHC の進捗と結核との交点  
PhiHealth や PHC レベルでの TB DOTS パッケージなど、フィリピンにおける結核対策とそれがどのように UHC に寄与しているかなど
5. ミャンマー事例 NTP  
UHC の進捗と結核との交点
6. バングラディッシュ等、日本からの支援の経験より  
演者： 石川信克（公財）結核予防会結核研究所名誉所長、ストップ結核パートナーシップ日本理事）
7. フロアから発言（順番未定）
  - ① Eric Goosby, USCF School of Medicine; UN Special Envoy on TB
  - ② 国際協力機構
  - ③ 池田千絵子（厚生労働省（総括審議官 国際保健担当）
  - ④ Suvanand Sahu, Deputy Executive Director Stop TB Partnership
8. 質疑応答
9. クロージング： 座長